

令和4年度「区特定課題調査」と「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和4年度の学力調査の結果を報告させていただきます。

「区特定課題調査」は、前学年までの学習がどの程度身に付いたかを調査することを目的としています。昨年度までは、3年生から6年生まで実施していましたが、今年度から6年生のみの実施となりました。

「全国・学習状況調査」は、文部科学省が、児童の学力状況を把握するために、毎年全国の小学校6年生と中学校第3学年を対象に行っているものです。

両方の調査共に6年生のみの結果となりますが、区、都、全国の平均との比較を基に、本校の学力の傾向について分析し、授業改善や日常的な取組に生かしていきたいと考えています。

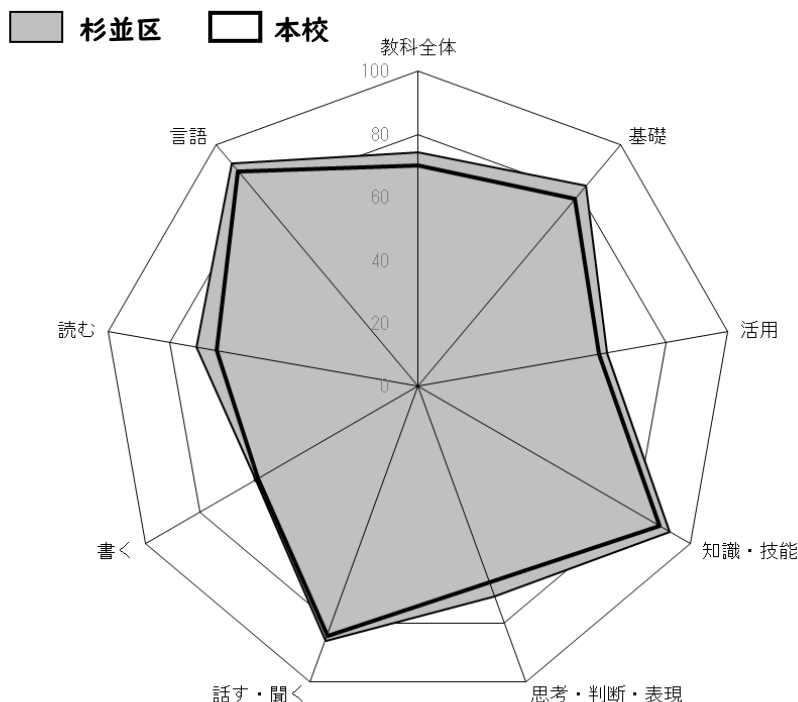
【区特定課題調査】

「国語」の正答率状況

「読む」の領域で区の平均を6.2ポイント下回り、課題と言えます。特に「物語文」の「人物の心情」を読み取る問題では、18ポイント差が見られた問題もありました。

同時に行われた「学習・生活についてのアンケート」では、区の1カ月の平均読書冊数が9.4冊であるのに対し、本校は、7.2冊となっており、読書量の不足もその要因と考えられます。

本校では、今年度から学期に1度「読書週間」を設定し、読書を推進しています。また、それ以外の期間も、朝読書の時間を確保しています。今後は、その時間をさらに充実させていく必要があります。また、授業で物語文の学習を行う際には、人物の相互関係や情景描写などを丁寧に読み取らせ、「読む力」を高めていきたいと考えます。

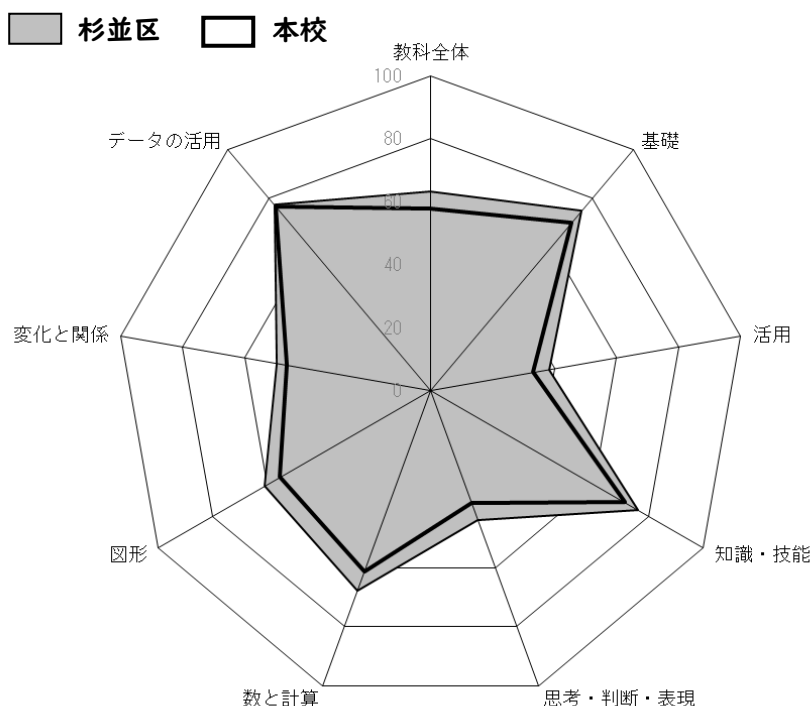


「算数」の正答率状況

「数と計算」の領域で区の平均を6.3ポイント下回りました。「帯分数の減法」の問題で13.4ポイント、「小数の乗法」の問題で15.1ポイント下回り、基礎的な内容の習熟が不可欠となっています。

2学期から、3年生から6年生に対して、タブレット端末の学習アプリを活用した宿題を出しています。原則、1学年下の学習内容を宿題に出し、定着を図っています。

算数は、学習の積み重ねが最も重要な教科です。既習事項の定着が不十分であれば、今行っている学習内容の理解にも大きく影響します。今後も授業改善に力を入れていながら、宿題等も工夫し、基礎基本の定着を図っていきます。



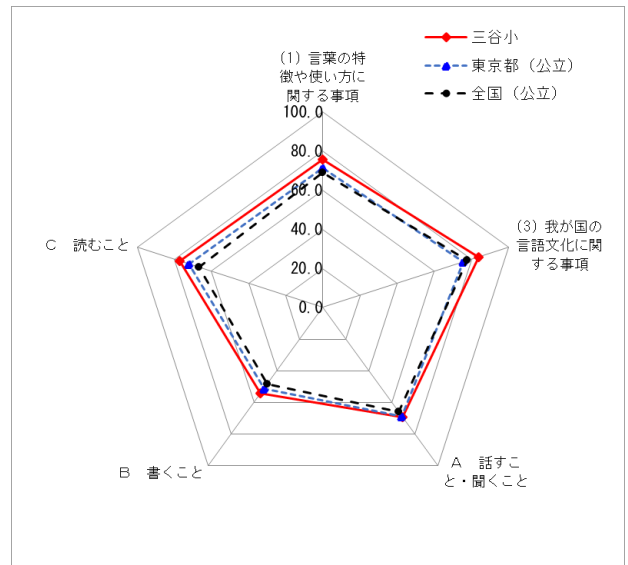
【全国学力・学習状況調査】

「国語」の学習指導要領の領域の平均正答率の状況

すべての項目で、都、全国の平均を上回っています。この調査においては、「読むこと」の領域も都の平均を4.8ポイント上回っています。

都や全国も同じ傾向にあります。他領域と比べ、「書くこと」の平均正答率が低くなっています。「文章の良いところを見付け、書く」問題では、平均正答率が42.5%となっています。

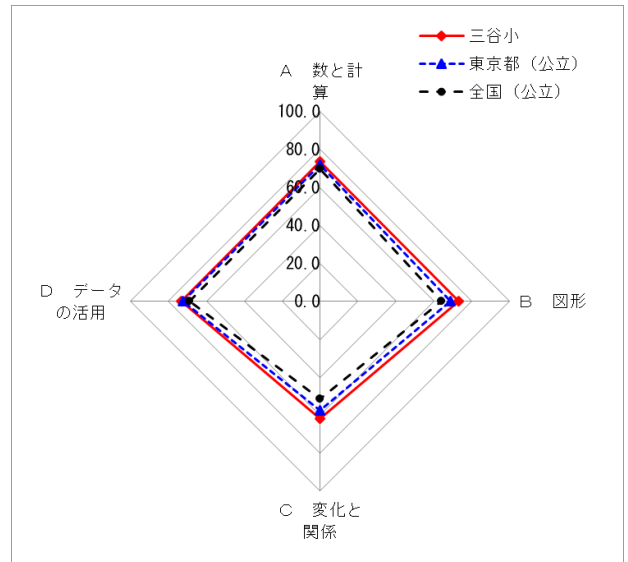
書く活動は、国語の授業に限られたものではありません。様々な教科の中で書く活動を取り入れ、教科横断的に書く力を高めていきます。



「算数」の学習指導要領の領域の平均正答率の状況

算数もすべての項目で、都、全国の平均を上回っています。

「変化と関係」の領域の平均正答率が、都、全国と共に他の領域に比べて低くなっています。内容はすべて「割合」に関わる問題でした。「割合」を本格的に学習するのは5年生ですが、毎年のように苦戦する子どもたちがあり、「割合」「基準量」「比較量」のうち、何を求める問題なのかをつかめない子も見られます。読解力を伸ばしていくと共に、数直線などを用いて、問題を正しく捉える力もつけていきます。



「理科」の学習指導要領の領域の平均正答率の状況

全国の前回は上回り、概ね都の平均並みとなりました。国語、算数ほどの優位性は見られませんでした。

他の学校も同様ですが、国語や算数に比べると復習などに時間をかけたり、宿題に出したりすることが少ない教科です。

前述したタブレット端末の学習アプリには、理科や社会の問題も入っています。授業の中で、それらをうまく活用し、学習内容の定着を図っていきます。また、魅力ある授業、実験を展開し、理科的なものに対する興味関心を高めていけるようにします。

